

住民の声

荷稻地区を お訪ねしました！

荷稻地区は、佐賀地域の中
央部、国道56号と県道秋丸佐
賀線との接続部周辺に位置
し、地区長によると世帯数は
27世帯、人口62人ほどの小集
落で、その内70歳以上の方が
約20人と高齢化が進んでい
るとのことです。

当地区は、住民のまとまり
が良く、少人数ながらも毎年
の地区内の清掃や田役、町道
の草刈りなどへの積極的な参
加も頂いているとのこと。

地区の主な産業は農業で、
地名の「荷稻」が「束ねた稲を
荷う」からとの由来があるほ
ど、古くから盛んな稲作の
他、ハウス園芸なども多いと
のことですが、自営林業従事
者はいないとのことでした。
9月下旬にお伺いしまし
たが、彼岸花の真赤な花がの
どかな風景に彩りを添える
中、沢山の温かい笑顔にも出
会えました。

▼毎年10月最終日曜日の秋祭りでは、お神輿が地区内を



▼集落活動センター前で地区フラッグの紹介です(左が大石区長)



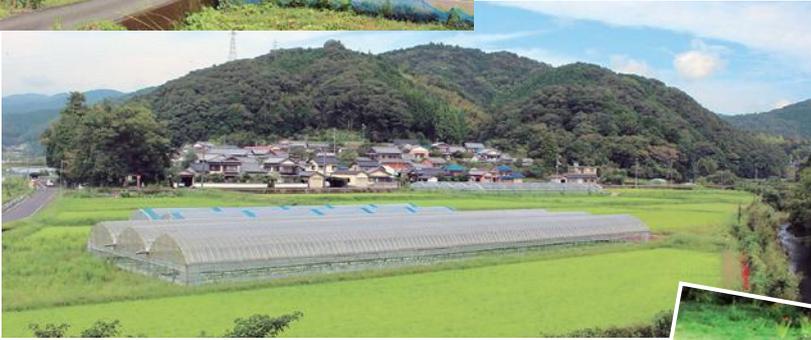
▲あったかふれあいセンターこぶしでの楽しい「敬老祝賀会」の一コマ(9月15日)



▶地区の守り神
「八坂神社」



荷稻地区の遠景
(上と右)



当地区は、高齢化の進んだ
小集落で、祭事などは地区
外からのご協力を頂くなど、
地区独自での開催が難しい
状況があります。
そうした中、地区内で営
農組合「米・米クラブ」を
立上げ、地区内外での稲作
やニラ栽培にも取り組んで
います。

また、周辺の9地区により、
いします。

大石 正幸区長の声

地域全体を盛り上げようと
「佐賀北部活性化推進協
議会」を立上げ、「集落
活動センター佐賀北部」
などを活用した地域づく
りにも取り組んでいます。
議会や行政への一言で
すが、これらの地区や地
域の活性化に向けて、よ
り一層の取り組みをお願
いします。

編集後記

暑い、暑いと過ごして
いた夏は、9月の声を聞
くと途端に涼しくなり
議会が終わった20日には
日本列島を駆け抜けた
秋台風18号の被害が明ら
かになりました。

幸い本町の被害は少な
かったとの報告を聞き
ほっと胸を撫でおろしま
した。

自然災害は、いつ何時
私たちを襲うかわかりま
せんが、最近の気象情報
は雨雲の位置まで知るこ
とができ、各自治体も暗
い夜の避難を避けるよう
早めに避難所を開設して
くれています。

何度避難を体験しても
一晩泊まっただけで、我
が家に帰れるということ
は、何より嬉しいことだ
すね。
(坂本 あや)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 宮川 徳光 |
| 副委員長 | 浅野 修一 |
| 委員 | 小松 孝年 |
| 同 | 坂本 あや |
| 同 | 藤本 岩義 |
| 同 | 宮地 葉子 |